

図書だより

2024年 6月号
三島高等学校 図書委員会

皆さん、お元気ですか？今月は愛媛県総合体育大会がありましたね。出場した選手の皆さん、お疲れ様でした。引退した3年生は、これから受験勉強に切り替えていきましょう。期末テストも終わりましたが、結果はどうでしたか？ジメジメとした暑い季節を元気に乗り越えて、1学期をいい形で締めくくりたいですね！

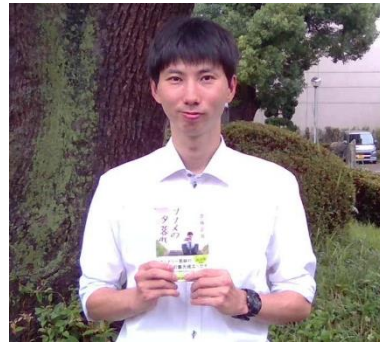
My Favorite Books

今回は、堀切 元生先生です！！

Q簡単な自己紹介をお願いします。

この4月に、南予の吉田高校から転勤してきました。出身は、九州の宮崎県（日南市）です（大学時代から愛媛県で過ごすこと早〇〇年・・・）。以前に常勤講師として新居浜南高校に勤務して以来、久しぶりの東予地方の学校での勤務となりました。

担当教科は数学で、1年生普通科では担任、部活動では男子バレーボール部の顧問を担当しています。四国中央市に住むのは初めてで右も左もわかりませんが、皆さんと共に成長していけるように頑張りますので、よろしくをお願いします。（ぜひ気軽に声を掛けてくださいね。）



Q高校時代(大学時代)に感銘を受けた本を教えてください。

高校時代に感銘を受けた本は、島田洋七著『佐賀のがばいばあちゃん』です。「がばい」とは佐賀弁で「すごい」という意味です。この本の中には、昭和30年代の田舎の、心優しい人物が多く登場します。貧乏ながら明るく生きる「がばいばあちゃん」の姿に元気をもらうだけでなく、「相手に気付かない気遣いが本当の優しさ」という言葉に高校時代の自分は、はっとさせられたのを鮮明に覚えています。この本からは、相手に媚びを売ったり見返りを求めたりすることなく、思いやりの心を持って人と向き合うことの大切さを学びました。読み進めやすい構成でもあり、ぜひ一度読んでみることをおすすめします。

Qみなさんに読んでほしい本を教えてください。

若林正恭著『ナナメの夕暮れ』を紹介します。筆者は、テレビやラジオで活躍中のお笑い芸人・オードリーの若林正恭さんです。2015年から約三年、雑誌にコラムとして連載されたものをまとめたこの作品は、筆者が「おじさん」になって、世界を肯定できるようになるまでを綴ったエッセイです。

筆者は元来、「人見知り」であり「気にしすぎ」であり、どこか生き辛さを感じる人間でした。制服の学ランの第一ボタンを閉めることにすら意味があることなのかと疑問を持ち、それを解明しないと自分の心に蓋をしたまま生きてしまうことになる、とあれこれ考える。そのような「めんどくさい人」を自認する筆者が、周りの目を気にせず、生きている人への憧れを諦めたということが、日々を気楽に楽しむことを結果的に手繰り寄せたという内容から、私はオードリー・若林正恭さんに親近感を感じるようになりました。

私は、この本を読む前からオードリーの漫才が好きでした。しかし、この本を読んでから同じネタの漫才を見ると、更に違った面白さを感じることができました。今やラジオ番組の企画で東京ドーム公演を成功させるほどの有名人である著者も、自分たちと同じ一人の人間であることが感じられる一冊です。「自分探し」の最中である人や、「生き辛さ」を感じている人は、読むことで心が軽くなるかもしれません。ぜひ読んでみてください。

Q三高生に一言！

人生において、高校時代は一度きりで、高校を卒業すれば多くの仲間とは離れ離れになってしまうことでしょう。しかし、何年経とうが、同窓会で顔を合わせれば一瞬で高校時代に戻れます。高校時代はそれくらい濃密な時間であり、今共に過ごす仲間は一生の財産となるはずですよ。限りある三島高校での時間を大切に、夢をかなえるべく頑張ってください！応援しています。

堀切先生、ご協力ありがとうございました！！！！



今回は、201 HR 図書委員がおすすめの本を紹介します！



『人間標本』 著者：湊かなえ

「人間も一番美しい時に標本にできればいいのにな」蝶の目に映る世界を欲した私には、あの美しい少年たちが蝶に見えた。

「人間標本」はイヤミスの女王-15周年記念書下ろし作品です。この本は異常殺人者の自己紹介から始まり、「ようこそ、美術館へ」という言葉から人間標本の作品の制作過程、作成意図が淡々と並べられています。おどろおどろしい殺人方法だが人間が蝶の標本そっくりに書かれているからか、残忍さよりも美しいと感じる作品です。またこの作品は、江戸川乱歩の「人間椅子」がタイトルにもオマージュされています。江戸川乱歩っぽさを感じる文章があるので、江戸川乱歩が好きな人、ミステリーが好きな人にはぜひ読んでほしい作品です。



『四月になれば彼女は』 著者：川村元気

「四月になれば彼女は」は川村元気による青春小説です。大学進学を控えた主人公青島が、小説家志望の女性、楠木瑠美との出会いを通じて、自己発見と成長を遂げる物語です。進路や将来について悩む高校生にとって共感できるテーマが多く、出会いが人生に与える影響を考えさせられる一冊です。



新着図書

- ・クスノキの神 /東野圭吾
- ・ここはすべて夜明けまえ /間宮改衣
- ・あきらめる /山崎ナオコ
- ・なぜ働いていると本が読めなくなるのか /三宅香帆
- ・定食屋「雑」 /原田ひ香
- ・コーヒーにミルクを入れるような愛 /くどうれいん